

営農ウィークリーNEWS

注意報発表！！

いもち病に注意してください！



葉いもち



穂首いもち



いもち病が圃場全体に広がった様子



おすすめ！

8月25日、京都府病害虫防除所より「病害虫発生予察注意報」が発表されました。京都府の8月中旬の巡回調査によると、葉いもちの発生は平年比多く、穂いもちの発生は平年比やや多いとのことです。

管内においても、いもち病が散見されています。適期に防除して病気が広がるのを抑え、収量確保を目指しましょう。

ヒノヒカリ、祝などの発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している圃場は、特に注意して薬剤防除を行ってください！

とにかく、いもち病！

フラシンフロアブル



ウンカやカメムシ防除も一緒に！

フラシンジョーカーフロアブル



【適用内容】(2021年3月10日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェリムゾンを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	1000倍	60~150 %/10a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	2回以内	3回以内
	褐条病 変色米 (カーブリア菌) (エピコッカム菌) (アルタナリア菌)	300倍	25%/10a					
	稲こうじ病 内臓褐変病 もみ枯細菌病 墨黒穂病	30倍	3%/10a			無人航空機による散布		
		8倍	800ml/10a					

【適用内容】(2020年10月末日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	300倍	25%/10a	収穫14 日前まで	2回以内	散布
	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	8倍	800ml/10a			無人ペリゴタによる散布
	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 変色米(アルタナリア菌、エピコッカム菌、カーブリア菌) 内臓褐変病 もみ枯細菌病 稲こうじ病 コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000倍	60~150 %/10a			散布

農薬の使用前には、必ずラベル等で登録内容の確認をお願いいたします！

-TAC information-

水稻・カメムシ類対策を忘れずに!!!



おすすめ！『スタークル粒剤』

散布適期は、出穂7日~10日後です。出穂とは、圃場全体の40~50%程度出穂した状態のことをいいます。水深を3cm程度にすることが大切です。

京都府病害虫防除所による8月の発生予報では、カメムシ類⇒「ヤヤ多」と発表されています。また、JA管内の西南部地域を中心に発生しているミナミアオカメムシも生育地域を拡大し続けております。出穂後、必ず防除を行ってください。

農薬の使用前には、ラベル等で登録内容の確認を必ず行ってください！

3 病 第 2 1 号
令和 3 年 8 月 2 5 日

京都府病害虫防除所長
(公 印 省 略)

関係各位

病害虫発生予察情報について
下記のとおり発表しましたので送付します。

病害虫発生予察注意報第 3 号

ネギ、豆類（黒大豆、エダマメ、アズキ）、野菜類
シロイチモジヨトウ

- 1 作物名
2 病害虫名
3 発生地域
4 加害時期
5 発生量
6 注意喚起等の措置

(1) 8月中旬の病害虫巡回調査において、ネギでの本虫幼虫発生量は小株で平年並、大株で発生を認めている(表1)。被害株率は過去10年間で最も高い(+) (表2)。

表1 ネギでのシロイチモジヨトウ被害株数(8月中旬)
表2 ネギでのシロイチモジヨトウ被害株率(8月中旬)

- (2) 8月中旬の病害虫巡回調査において、アズキで本虫幼虫の発生を認めている(+)。
(3) フェロモントラップへの誘殺虫数(7月第4半旬~8月第3半旬の合計値)は、京田辺市で97.0頭(平均24.7頭)と多い(+)。また、亀岡市で68.6頭(平均:66.8頭)、京丹後市で48.4頭(平均:48.0頭)と平成30年から調査を開始した2地点の過去3年間の各平均と同程度となっている。(図1)。

7 防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下する。また、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
(2) 性フェロモン剤による交信電乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
(3) 被害葉及び収穫残は本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等、適切に処分する。
(4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
(5) ネギでの薬剤散布は表3を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、病害虫防除所で平成29年に実施した薬剤殺虫効果試験の結果は、平成29年9月21日付け「病害虫発生予察注意報第4号」を参照のこと。

http://www.pref.kyoto.jp/bv/gai/documents/n29shuid_shiroichi.pdf
(6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

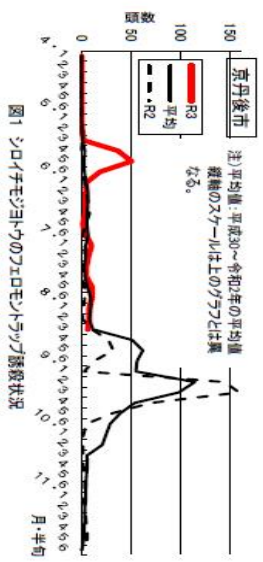
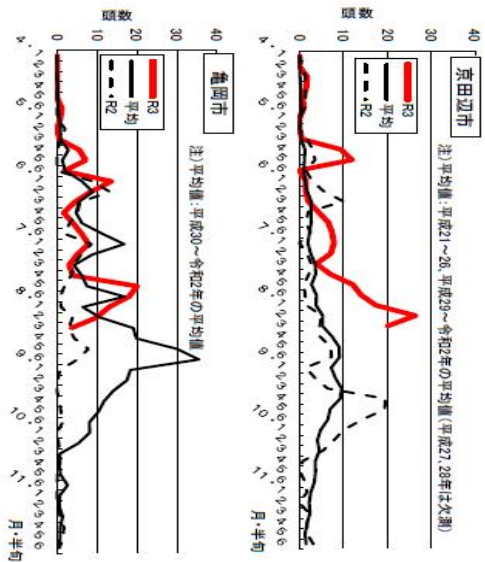


図1 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況



写真 シロイチモジヨトウ幼虫(左)と卵塊(中)、ネギの被害(右)

Table with 7 columns: No., Pesticide Name, Application Rate, Application Method, Application Frequency, Application Method, Remarks. It lists various pesticides used for cutworm control, such as 'シロイチモジヨトウ駆除剤' and 'フェロモン剤'.